



明治学院大学 教養教育センター

# 公開講演会 2015

## 講師

野間 秀樹 (のま ひでき)

明治学院大学 教養教育センター客員教授

- 言語学者。著書に『ハンゲルの誕生』(平凡社)、『日本語とハンゲル』(文藝春秋)、『韓国語をいかに学ぶか』(平凡社)、『韓国語 語彙と文法の相関構造』(太学社:ソウル)など、編著書に『韓国語教育論講座 全4巻』(くろしお出版)、『韓国語学習講座 凜 RIN』(大修館書店)など。
- 2005年大韓民国文化褒章受章。2010年『ハンゲルの誕生』、第22回アジア・太平洋賞大賞受賞。2012年韓国のハンゲル学会より周時経(チュ・シギョン) 学術賞受賞。2014年、編書『韓国・朝鮮の知を読む』(クオン、韓国語版はウィズダムハウス)で第12回パピルス賞受賞。



## 日時

第1回: 11月13日(金)

第2回: 12月11日(金) 各回共通 18:30~20:30

## 会場

明治学院大学 白金校舎 2号館 2302教室

### 第1回

11月13日(金)

18:30 ~ 20:30

白金校舎  
2号館 2302教室

## ことばを問う — 言語存在論が照らす、生きるための言語

比喩的に言うなら、世界の半分はことばでできている。世界のうちを〈話されたことば〉が生き、〈書かれたことば〉がうごめく。そして今日、言語が行われる場—言語場(げんごば)—は驚くべき劇的な変容のただなかにある。同時代の私たちの言語場ではいったい何が起きているのか。今日、私たちはことばをいかに見据えねばならないのか。西欧の言語学のみならず日本語や韓国語=朝鮮語をも視野に入れた、私たちに必要な言語の原理論とは何かを探る。

### 第2回

12月11日(金)

18:30 ~ 20:30

白金校舎  
2号館 2302教室

## ハンゲル — 進撃の知

ハンゲルという文字体系はいかにして15世紀朝鮮語圏に誕生したのか。そしていかに発展してきたのか。いったい人の世に文字が生まれるとは、どういうことなのか。仮名とは、漢字とは、アルファベットとは? 〈話されたことば〉はいかにして〈書かれたことば〉となりうるのか。ハンゲルの誕生と発展はなぜ〈知の革命〉なのか。ハンゲルを知の広野から照らすと、何が見えるのか。今日の私たちは何を学ぶのかを問う。

- 申込不要
- 参加費無料
- 一般公開

[お問合せ先] 明治学院大学 教養教育センター TEL:045-863-2067 E-mail:kkc@gen.meijigakuin.ac.jp

[主催] 明治学院大学 教養教育センター